

甲状腺外科草子 114

藤堂高虎の遺訓：高山公二百ヶ条②

杉野圭三

長い遺訓を辛抱強く続けよう！

【家来常々召仕様之事】(家来の召使いかた)

第 13 条 人のささえ不可聞又横目ハわさハひのもとひ也たとへささへるもの有時ハささゆる人とささへらるる人と常の挨拶を開へし惣而何事も不聞様に常に仕置の分別無他

(他人の告げ口聞かべからず。他人の監視は災いの元。告げ口する者がある場合、告げ口した人間、告げ口された人間ともいつも通り挨拶を受け、なにごともしなかったようにふるまうべきだ)

第 14 条 召仕ものに能者あしき者有間敷也其人々の得たる所を見立それぞれに召仕へは人に屑なきなり得ぬ事を申付るによりて埒あかす結句腹を立なり是主人の目かあかざる故なり(召し使うものに、有能、無能な者はいない。それぞれの得意分野を見立てれば人に屑はいない。できないことを申し付け、埒があかなくなり、腹を立てるのは、あるじに人を見る眼がないからだ)人材登用の方法は北条氏綱の五箇条、武田典厩信繁の九十九箇条、朝倉宗滴話記と相通じる。

第 15 条 家来たり共異見申者あらは委聞へし世間の取沙汰を聞言と心得へし能聞届手前にて了簡して至極の所は用ひまたそはつら成所は捨へし必主人により内の者の分として主人江異見立する推参といひ機嫌あしきは天下第一の悪人たるなり家頼主の為にならぬ者ハ陰々にて指をさし他の家来に語り伝へ名を立ル者数人なり我も家来も非本意常に情深き主人ハ家来名を不立他の家来主人の作法尋れども不語主人の心持肝要の事なり(家来に異なる意見があれば、詳しく聞くべきだ。世評を聞くようなものだ。良く聞き自分で考え、良いことは実行し、そうではないことは実行しない。あるじによっては、主へ異見を申すのを、推参者として機嫌を悪くするものがある。これは、天下第一の悪

人である。あるじのためにならないのは、陰で指さし、他の家来に語るものである。これは自分も家来も本意ではない。常に情け深いあるじは家来の名を言わず、家来もあるじの作法を尋ねられても語らない。あるじの心の持ちようが肝要)

武田典厩信繁の九十九箇条にも同様の趣旨あり。

第 16 条 士か士を仕ふ是時の仕合なり常々言葉きたなくいふへからず無成敗すへからず天道のかれかたし(武士が武士を使うのは、時の成行きで、常々言葉汚く言ってはいけない。しかし成敗しないのもいけない。天道は逃れがたい)

第 17 条 惣別人間たる者上下共心正敷して律義にして一言半句もうそを不可言人をうたかふへからず但時はなし杯ハ偽ましりても苦しからざるハ是も人の害に成事いふへからず(すべて、人間は上下ともに心正しく律儀であって、一言半句もウソを言うべからず。他人を疑うべからず。ただし、世間話などにウソが交じってもよいが、他人の害になることを言うべからず)

第 18 条 不断人の噂いふへからず人の善事ハ取上悪は捨へし人の悔も大形ハいふへからず深くいへハ悪口かましく可成(いつも、他人の噂を言ってはならない。他人の良いことは取り上げ、悪いことは捨てるべきだ。また、他人が悔やんでいることも大げさに言ってはいけない。深い話をすると、悪口を言っているようになる)

第 19 条 主人より我にあたることく又其下々へもうつすへし忝事あらは其ことくうつすへし無理なる事あらハ下々も迷惑に可存と心得尤の事也古人のいはく我身つめつて人の痛さを知れとなり(あるじから自分にするように、家来にも行なうこと。ありがたいこともその通りにする。無理なことがあれば、家来も迷惑であると心得ること。昔の人が我が身をつねって他人の痛さを知れといったのは、このことである)

優れた武将の言葉は相通ずる部分が実に多い！

参考資料：藤堂高虎公と遺訓二百ヶ条

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2024年9月26日